

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
(グローバル展開プログラム)

研究成果報告書

「人文・社会科学教育の内容と方法のイノベーションに関する国際比較研究」

研究代表者： 佐藤 学

(学習院大学 文学部 特別任用教授)

研究期間： 平成28年度～令和元年度

1. 研究基本情報

課題名	グローバル化に対応した人文学・社会科学の国際比較	
研究テーマ名	人文・社会科学教育の内容と方法のイノベーションに関する国際比較研究	
責任機関名	学習院大学	
研究代表者(氏名・所属・職)	佐藤学・文学部・特別任用教授	
研究期間	平成28年度 ～ 令和元年度	
委託費	平成28年度	3,107,000 円
	平成29年度	9,366,240 円
	平成30年度	6,158,880 円
	令和 元年度	4,768,920 円

2. 研究の目的

教育学のさまざまな視点や分析方法を使い、先進諸国の高等教育の人文・社会科学系教育の領域において教育方法・内容のイノベーションがどのように展開してきているかを、イノベーションを開発・普及するシステムに焦点をあてて相互比較を行い、日本のシステムの特徴と課題を明確化する目的で研究を推進した。分析にあたり、上述の3レベルを「大学と社会」、「政策・制度」、「実践」の3領域に分類したうえで、イノベーションのシステムを比較研究するための諸ディシプリンによる分業と協業を推進する。とくに、これまで日本の高等教育は、政策次元から実践の次元に至るまで、諸外国それぞれの高等教育（およびそこでの人文学・社会科学教育）が置かれてきた社会的文脈の違いを十分に位置付けることがないまま、アドホックに海外の事例を参照し、「先進事例」として導入をはかってきた。それに対して本研究では、理念のレベルに関する歴史的・思想的・社会的な分析も慎重に行うことにより、日本と諸外国との社会文脈的な相違を明確にしたい。そのためには各国の教育研究者との協働が不可欠である。

具体的には①大学と社会領域：教育史、教育思想史、教育社会学、②政策・制度的領域：教育行政学、教育社会学、③実践的領域：カリキュラム研究、教育方法学、教育工学などの学問分野の研究者たちが連携して研究を推進する。（採択後は、さらに分担者を増やす予定である。）人文・社会科学教育のあり方の見直し、特に教育内容や教育方法の革新については、個別の技術的改善以前に、「現代社会の変化の中で何が必要になっているのか」及び「どのようにイノベーションを起こすのか」という課題が明確にされる必要がある。それゆえ、本研究ではの学術的・社会的意義は、教育内容・方法のイノベーションの国際比較によって、①グローバル時代の高等教育がどのような資質・能力を育もうとしているのかを明らかにし、②それをふまえたうえで、日本の大学改革の方向性を決定するための示唆を提示することに努めた。

3. 研究の概要

本研究は、先進諸国の高等教育における人文・社会科学教育の教育方法・内容のイノベーションの展開について、教育学の多様な調査・分析手法を使って比較考察し、日本の現状のシステムの特徴と改善し克服すべき課題を明らかにすることを目的とした。具体的には、理念やニーズ—政策・制度—実践の3つのレベルの統合体として、イノベーションを開発・普及するシステムをとらえ、それぞれのレベルの国別比較を行うことによって、以下の課題を明らかにする。1)どこまでが先進諸国に共通な(あるいはトランスナショナルな)レベルで共有された、システムの形成や変容の動向となっているのか。2)先進諸国間にどのような多様性が存在するのか。また、それぞれの国内において、さまざまなイノベーションをめぐるどのような論争や対立、多様性が存在しているのか。3)それぞれの国のイノベーションが、国内的・国際的にどのような回路で拡大・普及しているのか。以上の3点をふまえ、①イノベーションのシステムのあり方における日本の特徴と課題、②国際的に展開するさまざまなイノベーションの動向における日本の選択肢の可能性、およびその選択における基準を明らかにした。

本研究の特色は、教育学の諸分野の研究者が協働し、国際的なネットワークにもとづいて高等教育における教育方法・内容のイノベーションに取り組んだ点にある。従来の高等教育研究が高等教育関係者や特定の研究領域の研究者集団によって限定的に行われてきたのに対して、本研究では、教育学諸分野を総合する研究体制により、①グローバル時代の高等教育がどのような資質・能力を育もうとしているのかを明らかにし、②国際比較により日本の大学改革の方向性を探索する示唆を提示した。

4. 研究プロジェクトの体制

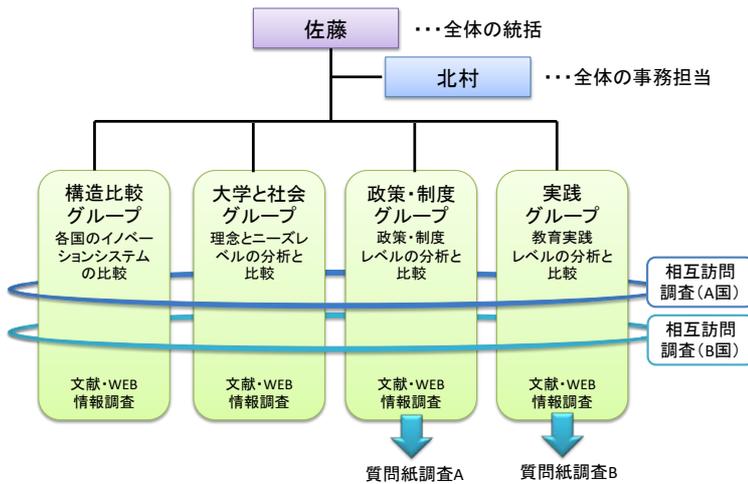


図1. 本研究の研究体制

研究プロジェクトの体制として「構造比較」「大学と社会」、「政策・制度」、「実践」の4領域に分類したうえで、イノベーションのシステムを比較研究するための諸ディシプリンによる分業と協業を推進し、理念のレベルに関する歴史的・思想的・社会的な分析も行うことにより、日本と諸外国との社会文脈的な相違を明確にした。
各研究グループの体制は、以下の通りである。

プロジェクト・グループの体制			
研究代表者・グループリーダー・分担者の別	氏名	所属機関・部局・職(専門分野)	役割分担
グループリーダー	北村友人	東京大学・大学院教育学研究科 准教授	構造比較
分担者	仁平 典弘	東京大学・大学院教育学研究科・ 准教授	構造比較
分担者	北田 暁大	東京大学・情報学環・教授	構造比較
分担者	中村 雅子	桜美林大学・心理教育学系・教授	構造比較
分担者	吉田 文	早稲田大学・教育・総合科学学術 院・教授	構造比較
グループリーダー	松浦 良充	慶應義塾大学・文学部・教授	大学と社会
分担者	隠岐さや香	名古屋大学・大学院経済学研究 科・教授	大学と社会
分担者	児美川 孝一郎	法政大学・キャリアデザイン学 部・教授	大学と社会
分担者	濱中 淳子	早稲田大学・教育・総合学術院・ 教授	大学と社会
分担者	白川 優治	千葉大学・国際教養学部・准教授	大学と社会
分担者	大場 淳	広島大学・高等教育研究開発セ ンター・副センター長・教授	大学と社会
グループリーダー	廣田 照幸	日本大学・文理学部・教授	政策・制度
分担者	南島 和久	新潟大学・人文社会・教育科学 系・教授	政策・制度
分担者	米澤 彰純	東北大学・インスティテューショ ナル・リサーチ室長・教授	政策・制度
分担者	森 利枝	大学改革支援・学位授与機構研 究開発部・教授	政策・制度
分担者	秦 由美子	広島大学・高等教育研究開発セ	政策・制度

グループリーダー	松下 佳代	ンター・教授 京都大学・高等教育研究開発推進センター・教授	実践的研究
分担者	秋田 喜代美	東京大学・大学院教育学研究科・教授	実践的研究
分担者	渡邊 雅子	名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・教授	実践的研究
分担者	清水 晶子	東京大学大学院総合文化研究科・准教授	実践的研究
分担者	中村 浩子	大阪国際大学・国際教養学部・准教授	実践的研究
分担者	石川 裕之	京都ノートルダム女子大学・准教授	実践的研究
分担者	深堀 聰子	九州大学教育改革推進本部・教授	実践的研究

5. 研究成果及びそれがもたらす波及効果

<研究成果の具体的内容>

① 総括的研究

初年度、ドイツ研究振興協会(DFG)の主催した日独人文社会科学シンポジウム(2018年)において、研究代表の佐藤が「人文社会科学のインパクトのインパクト」と題する基調報告を行い、日独の人文社会科学の現状とその評価に関する研究交流を行った。さらにオーストラリアの人文社会科学協会のフリーマン教授に講演をお願いし、環太平洋諸国の大学における人文社会科学教育の現状について聞き取り調査を行った。また世界教育学会理事会(2017年:アメリカ・サンアントニオ市、2018年:南アフリカ・ケープタウン市)および香港における大会(2017年)に参加して、本プロジェクトの協力関係を築いた。香港大会においては、本プロジェクトで支援した若手研究者8名が研究発表を行った。

② 人文・社会科学教育に関する先行研究のレビューとデータベースの作成

人文・社会科学教育のレビューを各グループのテーマごとに実施した。その成果を、2017年にタイのバンコク市で開催された国連教育科学文化機関・アジア太平洋教育総局と東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化センターが共催したワークショップ「アジア太平洋における高等教育の国際化」のなかで発表した。

③ 人文・社会科学教育に関する事例研究

事例研究を行った国は、米国、英国、中国、豪州、日本の5カ国である。それらの研究成果の一部は、2017年に香港で開催された世界教育学会の年次大会において3名の若手研究者が発表した。

④ 人文・社会科学教育の国際比較の枠組み構築

1) アジア太平洋地域の国際専門家会議の開催。

タイトル: Third Stakeholders' Meeting on Indicators for Internationalization of Higher Education in Asia and the Pacific

開催日時: 2018年11月28日(水)

場所: 於バンコク Sofitel Hotel & Resort

報告者: 北村友人(東京大学)、James Williams (George Washington University)、米澤彰純(東北大学)ほか。

主催: 東京大学教育学研究科(日本学術振興会課題設定による先導的人文学・社会科学推進事業(グローバル展開プログラム)「人文・社会科学教育の内容と方法のイノベーションに関する国際比較研究」)、国連教育科学文化機関バンコク事務所 協力: 文部科学省、早稲田大学グローバルアジア研究センター。

概要: 2016年から開催してきたアジア太平洋地域の高等教育の国際化に関するワークショップを2018年も開催し、

“Developing holistic indicators to promote the internationalization of higher education in Asia and the Pacific”を発表し、中国・インド・マレーシア・韓国・タイで実施した高等教育の国際化に関する事例研究を交換した。(研究者・実務者約40名が参加)

2) ジュディス・バトラー教授による講演会の開催

タイトル: ジュディス・バトラー教授講演「Bodies That Still Matter(それでも重要な諸身体)」

開催日時: 2018年12月8日(土)

場所: 東京大学

報告者: ジュディス・バトラー教授、司会: 北田暁大(社会学/東京大学大学院情報学環教授)、清水晶子(東京大学大学院総合文化研究科教授)。

主催: AMSEA: Art Management of Socially Engaged Art, The University of Tokyo(東京大学 | 社会を指向する芸術のためのアートマネジメント育成事業)(平成30年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」 共催: 東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論コース、明治大学文学部 協力: 社会の芸術フォーラム、日本学術振興会課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業「人文・社会科学教育の内容と方法のイノベーションに関する国際比較研究」。(研究者・学生を含む約250名が参加)

3) 日本学術会議公開シンポジウム「地域と世界に生きる大学: 地域社会における知の創造と発展のために」

開催日時: 2019年2月3日(日)

場所: 日本学術会議講堂

報告者: 白川 優治(千葉大学国際教養学部准教授)、山田 健三(信州大学人文学部学部長、教授)、牧田 正裕(立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授)、井口 和起(福知山公立大学学長)、道面 雅量(中国新聞編集局文化部記者)、パネリスト: 吉田 文(日本学術会議連携会員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授)、山本 健慈(前和歌山大学学長、国立大学協会専務理事)。

主催: 日本学術会議第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会、日本学術会議科学者委員会学術と教育分科会、共催: 日本学術振興会課題設定による先導的人文学・社会科学推進事業(グローバル展開プログラム)「人文・社会科学教育の内容と方法のイノベーションに関する国際比較研究」。

概要: 各地域の具体的な動きの中で必ず踏まえられるべき大学と学術の役割にかかわる視点を確認した。(研究者・学生を含む約100名が参加)

4) 「大学と社会」の調査・分析として、以下の諸研究活動を実施した。

研究協力者である原田早春(慶應義塾大学大学院)が作成した「諸外国における人文社会教育の高度化に関する先行研究の概要(文献リスト)」の改訂・増補を行い、同リスト所収の文献について、収集・整理・分析を行った。あわせて関連資料のweb調査を行った。

フランス、イギリス、アメリカ、オーストラリアの人文・社会科学教育の動向と背景について包括的な検討を行った。綾井桜子(十文字学園女子大学准教授)に基調講演「フランス近代における教養・哲学・教育」をお願いし、フランスにおける教養と科学、さらには哲学教育の現状と課題について検討した。さらにイギリス、アメリカ、オーストラリアの文献のレビューと分析を行った。イギリス: Stefan Collini, *What are Universities for?* (London: Penguin, 2012) = 間篠剛留・大阪成蹊大学専任講師。アメリカ: Debra Humphreys and Patrick Kelly, *How Liberal Arts and Sciences Majors Fare in Employment: A Report on Earnings and Long-Term Career Paths* (Washington D.C.: Association of American Colleges and Universities, 2014) = 原圭寛・弘前学院大学・専任講師。オーストラリア: Deanne Gannaway, "The Bachelor of Arts: Slipping into the Twilight of Facing a New Dawn?" *Higher Education Research and Development*, 34-2, 2015, pp.298-310 = 原田早春(慶應義塾大学大学院)。

5) <実践的研究>グループと共同で韓国の大学の訪問調査を実施した、「大学人文力量強化事業(CORE事業)」に関して調査と資料収集を行った。調査者は松浦良充(慶應義塾大学)と石川裕之(畿央大学)。訪問先は、韓国・ソウル市の成均館大学校、国立ソウル大学校、梨花女子大学校、高麗大学校である。シンガポール国立大学(NUS)において史資料の閲覧・収集を行い、同大学内においてアメリカの大学と提携リベラル・アーツ教育を実施しているイェール-NUSを訪問した。原田早春(慶應義塾大学大学院)の作成した「諸外国における人文社会科学教育の高度化に関する先行研究の概要(文献リスト)」の改訂・増補を行い、Web調査を行った。

アメリカ合衆国の大学における人文学・社会科学教育とリベラルアーツ教育の改革動向について、シカゴ大学リーゲンシュタイン図書館のコレクションズの所蔵資料を入手し分析した。

ドイツ・フランス・オランダの訪問調査と文献調査を行った。ドイツ(デュッセルドルフ大学・ランダウ大学・ベルリ

ン自由大学・コプレント大学など)では各州政府によるエクセレンス・イニシアティブ政策の一環として推進される教育実践の事例分析、およびカリキュラム分析、フランス調査ではパリとグノーブルの高等教育学院の訪問調査、オランダでは、アムステルダム大学、ライデン大学、ユトレヒト大学の人文学教育と学士課程と修士課程の英語教育の調査を行った。

<制度と政策の調査>

アメリカとドイツの高等教育についての研究者(森利枝、吉川裕美子)の報告、フランスと東アジアの高等教育の研究者(細尾萌子、米澤彰純・白幡真紀)の報告をもとに討議した。そして各国の高等教育における人文・社会科学教育の内容と方法のイノベーションに関する研究動向の把握のため、各種データベースと図書・論文を対象に、包括的なサーベイを行って、情報の収集・整理を進めた。

ベトナム調査、韓国調査と中国調査を、他のグループとの共同の下で実施した。ハノイ国立大学とハノイメトロポリタン大学で、人文社会科学教育の改善状況に関する聞き取り調査を行った。韓国を対象にした調査ではイノベーションの展開状況、および普及システムの特徴を明らかにする目的で、啓明大学校、延世大学校において調査を実施した。中国調査では復旦大学高等教育研究所、上海外国語大学等で調査を実施した。

- 1) 高等教育カリキュラムのイノベーションに影響を与える外部・内部のアクターの違いを国別に整理するため、行政学(南島和久)、教育哲学(山口裕毅)の問題提起をもとに議論を行い、中国調査(李敏・黄福涛)、韓国調査(石川裕之・米澤彰純・嶋内佐絵)、英国からの招聘(秦由美子)の成果を交流した。
- 2) オックスフォード大学のSachin C. Varma氏を招聘し、国際セミナーを開催した。

<実践的研究(訪問調査・研究交流・フィールド調査)>

- 1) 学習成果アセスメントと学習改善に関する研究・実践動向の調査・分析、研究交流

全米を代表するアセスメント研究者が一堂に会し、「学習改善」を促すアセスメントの在り方について議論するフォーラム(National Learning Improvement Summit “Breaking New Ground: The Role of Assessment in Higher Education Learning Improvement.”)の結成大会に参加し、意見交換を行った(深堀聰子、松下佳代)。James Madison University Center for Assessment and ResearchディレクターのKeston Fulcher氏を招聘し、学習成果のアセスメントと学習改善に関する日米の実践的研究について交流するための国際シンポジウムを開催した。

- 2) 哲学分野のイノベーションに関する研究交流

深堀聰子(九州大学、本グループ)が、国立教育政策研究所と合同でKeston Fulcher氏を招聘し、わが国の哲学分野における学位プログラムの構築について議論した。

- 3) 分野横断的なイノベーション(大学版「知の理論」)に関する研究交流

分野横断的なイノベーション的取組としてのIB「知の理論(Theory of Knowledge)」に注目、日本型・大学版「知の理論」の開発の可能性について検討した。

- 4) 韓国の大学における人文学教育イノベーションに関する訪問調査

ソウル市所在の主要大学を訪問し「大学人文学力強化事業(CORE事業)」に関するインタビュー調査と資料収集を行った(大学と社会グループと共同)。

- 5) 学習成果アセスメントと学習改善に関する研究・実践動向の調査・分析、研究交流

- (1) 国際ワークショップの開催(主催)による研究交流

James Madison University Center for Assessment and Researchから、アセスメント・スペシャリストのDr. S. Jeanne HorstとDr. Brian C. Leventhal氏を招いて、学習アセスメントと教育改善に関するワークショップを開催した。

- (2) オーストラリア訪問調査・フィールド調査

形成的アセスメント研究の第一人者であるThe University of Queensland名誉教授のDr. D. Royce Sadlerを訪問し、研究交流を行うとともに、現在、高大接続でのアセスメント改革を行っているQueensland州のQueensland Curriculum & Assessment Authority、および州立・私立の学校(Kenmore State High School、West Moreton Anglican College)を訪問し、改革の内容と現状について、情報収集と意見交換を行った。

- 6) 野横断的なイノベーション(大学版「知の理論」)に関する研究報告・研究交流

- (1) 国際シンポジウムの開催(共催)による研究報告・研究交流

Learning to Think: Disciplinary Perspectives の著者James G. Donald を招聘し、大学教育の質保証におけるdisciplinary aspects の重要性についての国際シンポジウムを開催した。本研究グループから松下が「分野別参照基準と学習成果—分野固有性・分野横断性・汎用性—」と題する講演を行った。

(2) パネルディスカッションの開催による研究報告・研究交流

汎用性と分野固有性・分野横断性との関係という観点から、比較検討を行った。

<総括シンポジウム>

本プロジェクトの総括シンポジウムを2020年2月に開催し、人文学・社会科学の「社会的価値(social value)を積極的に見直し、グローバル・リーダーシップ、グローバル・シティズンシップ、SDGs教育、専門教育に継続するジェネリック・スキルを指標とする人文学・社会科学教育のイノベーションの方向性を確認した。この総括をふまえ、報告書作成と公刊書籍出版の準備を確認した。」

6. 今後の展開

本研究は、各グループともに精力的に研究活動を展開して所期の目的を上回る成果を上げ、膨大な情報データ、知見を集積している。しかも先進諸国の人文学・社会科学の教育内容と教育方法のイノベーションは、予想以上に多彩かつ多様に展開している。それらを類型化し特質化し日本の大学改革への示唆を抽出するには、さらなる総合的探究が必要である。

① イノベーションの類型化とその社会的・制度的文脈の特質化

先進諸国における人文学・社会科学教育の内容と方法のイノベーションの多様性を特徴づける理論モデルの構築が求められる。今後、イノベーションの北米型、ヨーロッパ型、東アジア型の特質について考究したい。

② 研究成果の総括と公刊

本研究の成果は、日本語と英語の二つの言語の学術論文と学術書として公刊する予定である。英語による論文や学術書の発表にあたっては、国際的な学術出版社(Springer, Routledge, Emerald, Palgrave, Macmillanなど)との連携を検討してきた。日本の学術のグローバル化への寄与として、海外の共同研究者たちとミナーを開催し、国境を越えて学術的な貢献を実現することも追求する

とりわけ、国連教育科学文化機関(ユネスコ)アジア太平洋総局(バンコク事務所)と連携し、本研究の成果を広くアジア各国の高等教育政策・行政に活用する方途を開くことも追求したい。

【研究成果の発表状況等】

○論文 (計9件) うち査読論文 計8件 うち国際共著論文 計3件 うちオープンアクセス 計2件

- ① 吉田 文「高等教育の拡大と学生の多様化—日本における問題の論じられ方—」『高等教育研究』第21集、2018年6月、pp. 11-37. 査読有
- ② Matsushita, K., Ono, K., & Saito, Y. Combining Course- and Program-level Outcomes Assessments Through Embedded Performance Assessments at Key Courses: A Proposal Based on the Experience from a Japanese Dental Education Program. *Tuning Journal for Higher Education*, Vol. 6, No. 1, November, 2018, 111-142. 査読有 ([http://dx.doi.org/10.18543/tjhe-6\(1\)-2018pp111-142](http://dx.doi.org/10.18543/tjhe-6(1)-2018pp111-142))(査読あり、オープンアクセスあり)
- ③ Fukahori, S., Towards a Theory of Disciplinary Relationships: A Proposal for an Analytical Framework of Disciplinary Learning Outcomes Reference Points. *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, Vol. 12, October, 2018, 61-75.(https://www.jstage.jst.go.jp/article/esjkyoiku/12/0/12.61/_pdf/-char/ja) (査読あり、オープンアクセスあり)
- ④ 深堀聰子「日本版ディプロマ・サプリメントが明かす日本高等教育質保証システムの課題」『工学教育』第67巻第1号、2019年1月、22-27頁。査読有
- ⑤ 松浦良充・福田雅樹・鈴木晶子「AI技術文明時代に求められる教養を探る—法・倫理・教育にとっての技術革新と人間社会—」『教育哲学研究』第119号、教育哲学会、2019年10月 pp.146-152. 査読有
- ⑥ 松浦良充「揺るぎなき」教養」『近代教育フォーラム』第28号、教育思想史学会 2019年10月 pp.32-38. 査読有
- ⑦ Watanabe, M. “Styles of Reasoning and Framing Temporality in History Education.” 10th World Education Research Association Focal Meeting, August 6, 2019, Gakushuin University, Tokyo. 査読有
- ⑧ 松下佳代「高大接続改革の中での大学教育のあり方—汎用的能力に焦点をあてて—」『大学教育学会誌』第41巻第2号、2020年1月、18-22頁。査読有

- ⑨ 深堀聰子・松下佳代・中島英博・佐藤万知・田中一孝・畑野快・斎藤有吾「学修成果アセスメント・ツール活用支援を通じたエキスパート・ジャッジメントの涵養と大学組織の変容—先駆的事例の分析—」『大学教育学会誌』第41巻第2号、2020年1月、62-66頁。査読有

○著作物（計20件）

- ① Manabu Sato, *El desafío de la escuela, Crear una comunidad para el aprendizaje*, (Traductora: Virginia Meza H.) El Colegio de Mexico Publisher, March 2018. 274p. 査読無
- ② Manabu Sato, *Spread and Progress of School as Learning Community in Asia*. Tsukui, A, and Murase, A. eds, *Lesson Study and School as Learning Communities: Asian School Reform in Theory and Practice*. London and New York/Routledge, 2018年 PP.15-30, 査読無
- ③ 北村友人・興津妙子「質の高い教育—SDG4」高柳彰夫・大橋正明編『SDGsを学ぶ：国際開発・国際協力入門』法律文化社、2018年12月。査読無
- ④ Akiyoshi Yonezawa, Yuto Kitamura, Beverly Yamamoto and Tomoko Tokunaga (eds.) (2018). *Japanese Education in a Global Age: Sociological Reflections and future Directions*. Singapore: Springer 査読無
- ⑤ Yuto Kitamura, Takayo Ogisu and Eri Yamazaki (2018). “School Teachers’ Professionalism and Teacher Training in Japan: From ‘Teaching Specialists’ to ‘Learning Professionals’”, in Nikola Hobbel and Barbara L. Bales (eds.). *Navigating the Common Good in Teacher Education Policy: Critical and International Perspectives*. New York: Routledge 査読無
- ⑥ Yuto Kitamura, Toshiyuki Oomomo and Masaaki Katsuno (eds.) (2019). *Education in Japan: A Comprehensive Analysis of Education Reforms and Practices*. Singapore: Springer 査読無
- ⑦ 南島和久「政策評価」松田憲忠・岡田浩編『よくわかる政治過程論』ミネルヴァ書房、2018年11月29日、214-135頁 査読無
- ⑧ 松下佳代「資質・能力とアクティブ・ラーニングを捉え直す—なぜ、「深さ」を求めるのか—」グループ・ディダクティカ編『深い学びを紡ぎだす—教科と子どもの視点から—』勁草書房、2019年2月、3-25頁。 査読無
- ⑨ 石川裕之「韓国における才能教育—高度人材育成のための国家戦略—」山内乾史編著『才能教育の国際比較』東信堂、2018年12月、189-218頁。 査読無
- ⑩ 石川裕之・全京和「韓国における学位制度」『高等教育研究叢書』第148号、2019年3月、7-20頁。(査読無、オープンアクセスあり)
- ⑪ 松浦良充「教育を問う—大学にとって「教育」とは何か」森田尚人・松浦良充編著『いま、教育と教育学を問い直す—教育哲学は何を究明し、何を展望するか』東信堂、2019年、pp.61-87。 査読無
- ⑫ 佐藤学 토 마나부 저, 신지원 역: 학교를 철학하다-사토 마나부의 학교개혁의 철학- 에듀니티 申智媛訳 (『学校改革の哲学』東京大学出版会の韓国語訳) 韓国 Edunety 2019年3月 311P. 査読無
- ⑬ 北村友人・佐藤真久・佐藤学編(2019)『SDGs時代の教育—すべての人に質の高い学びの機会を—』学文社、2019年4月 304頁。 査読無
- ⑭ 佐藤真久・北村友人・馬奈木俊介編(2020)『SDGs時代のESDと社会的レジリエンス』筑波書房、158頁。 査読無
- ⑮ 北村友人「学力観をめぐる国際的な議論の潮流—国際機関を中心に—」東京大学教育学部教育ガバナンス研究会編『グローバル時代の教育改革—教育の質保証とガバナンス—』東京大学出版会、2019年8月、19-31頁。 査読無
- ⑯ Sachi Edwards and Yuto Kitamura, “Knowledge Diplomacy and Worldview Diversity Education: Applications for an Internationalized Higher Education” in Neubauer, D. E., Mok, K. H. and Edwards, S. (eds.). *Contesting Globalization and Internationalization of Higher Education: Discourse and Responses in the Asia Pacific Region*. Cham, Switzerland: Springer Nature, 2019, pp.143-161. 査読無
- ⑰ 荒川奈緒子・北村友人「国際機関を通じた国際教育協力—効果的・効率的な連携の模索—」萱島信子・黒田一雄編『日本の国際教育協力—歴史と展望—』東京大学出版会、2019年9月、273-306頁。 査読無

- ⑱ Jing Liu and Yuto Kitamura, “The Role of Universities in Promoting Sustainability in Asia” in Zhong, Z., Coates, H. and Shi, J. (eds.). *Innovations in Asian Higher Education*. Oxon, UK: Routledge., October 2019, pp.64–75. 査読無
- ⑲ 北村友人・梅宮直樹・大澤亜希「カンボジアの大学教授職の現状と課題」有本章編『大学教授職の国際比較—世界・アジア・日本—』東信堂, 2020年2月, 181–194頁. 査読無
- ⑳ 広田照幸『大学論を組み替える——新たな議論のために』名古屋大学出版会、2019年10月、320頁 査読無

○講演（計25件）うち招待講演 計16件 うち国際学会 計20件

- ① Manabu Sato, The Two Japanese Models: From “East Asian Model” to “School as Learning Community Model” under Globalization. 日本比較教育学会第53回大会公開国際シンポジウム「教育モデルが国境を越える時代を俯瞰する」招待講演 東京大学安田講堂 2017年6月24日（参加者約450名）招待講演
- ② Manabu Sato, Learning to Teach in Professional Learning Community: Enhancing the Cycle of Design, Practice and Reflection, The Third Conference of Teacher Education Summit, Beijing Normal University, China, October 16, 2017. (400名 研究者350名 一般50名) 招待講演
- ③ Manabu Sato, The Impact of Impact: Current Situation of Humanities and Social Sciences in Japan. DFG Symposium: Invited Speech, Humanities and Social Sciences in Germany and Japan, German Culture Center in Tokyo, November 14, 2017. (50名 研究者50名) 招待講演
- ④ 佐藤学「21世紀型学校教育の創造—社会変化中の教学改革—」招待基調講演 中国・山東教育学会・山東省教育発展研究中心 2018年4月6日 招待講演
- ⑤ Manabu Sato, The Two Japanese Models: From the “East Asian Model” to “School as Learning Community Model” under Globalization. Invited Speech, World Education Research Association World Congress, Cape Town, South Africa, August 4, 2018 招待講演
- ⑥ Manabu Sato, Educational Change in Japan 2008–2018 and Its Backdrops: Current Features of Neo-liberalism and Neo-conservatism, Invited Keynote Speech, Mexico–Japan Symposium of Educational Innovation, El Colegio de Mexico, September 27, 2018. 招待講演
- ⑦ 北村友人 “Current Status of Key Issues on University Governance and Management”, The Project on Support for Capacity Building of the GMS University Consortium 1st Management Leadership Development Workshop, 於ヤンゴン Summit Parkview Hotel, 2018年8月15日、招待講演
- ⑧ 北村友人 “Internationalization of Higher Education for Promoting Entrepreneurship and Innovation in Asia: International Cooperation among Diverse Stakeholders”, The IAFOR Conference for Higher Education Research – Hong Kong, 於香港 嶺南大学、2018年10月19日、招待講演
- ⑨ 北村友人 “Internationalization of Higher Education in Asia: Roles of Humanities and Social Sciences”, Third Stakeholders’ Meeting on Indicators for Internationalization of Higher Education in Asia and the Pacific, 於バンコク Sofitel Hotel & Resort、2018年11月28日、招待講演。
- ⑩ 堀田泰司、北村友人、小嶋緑 “New Agreements of ASEAN+3 Nations on an Aligned Educational Framework: Is It a Promising Idea?”, 2019 AIEA Annual Conference, 於サンフランシスコ San Francisco Marriott Marquis、2019年1月22日。
- ⑪ McInerney, D.J., Wagenaar, R., Isaacs, A. K., Fukahori, S., & Tanaka, I., “The State of Tuning around the Globe: A Roundtable Discussion.” American Historical Association Annual Meeting, 2019, January 4, Hilton Chicago.
- ⑫ Fukahori, S. “Measuring How Well Students Can Think Like an Engineer – A Collaborative Effort Among Japanese and Indonesian Academics.” The 14th International CDIO Conference in Kanazawa, July 1, 2018, Kanazawa Institute of Technology.
- ⑬ 広田照幸「メルトクラシーの神話と教育制度改革(精英教育神話与教育制度改革)」第15回中国教育社会学会大会 於南京師範大学、2018年10月20日。参加者約200名(研究者)招待講演
- ⑭ Manabu Sato, Issue and Possibilities of Liberal Arts Education: Problem Setting. World Education

Research Association 10th Focal Meeting, Tokyo, August 8, 2019. 招待講演 参加者約 100 名。

- ⑮ Manabu Sato, Lesson Study in Schools as Learning Community; Policy and Practice in Asia, Keynote Speech of Expert Seminar, World Association of Lesson Studies, Amsterdam, Netherland, September 2, 2019. 招待講演 参加者約 100 名
- ⑯ Manabu Sato, Inquiry and Collaboration in School as Learning Community: At Both of Classrooms and Staff Room” Keynote Speech, EDUCA 2019, The 7th International Conference of School as Learning Community, Bangkok, Thailand, October 16, 2019. 招待講演 参加者約 900 名
- ⑰ Ka Ho Mok “Questing for Sustainable Development in Higher Education: The Role of Liberal Arts Education”, WERA Focal Meeting in Tokyo, August 6, 2019, Gakushuin University, Tokyo. 招待講演
- ⑱ Yuto Kitamura “Why are Humanities and Social Sciences Important?: The Promotion of “STEAM” in Education and Research at Higher Education Institutions in Southeast Asia”, WERA Focal Meeting in Tokyo, August 6, 2019, Gakushuin University, Tokyo. 招待講演
- ⑲ Aya Yoshida “Liberal/General Education in Japan: In Search of the Place to Fit”, WERA Focal Meeting in Tokyo, August 6, 2019, Gakushuin University, Tokyo. 招待講演
- ⑳ Yuto Kitamura “How do we promote new models of teaching and learning in the era of SDGs”, International Symposium on Engagement in Higher Education for Sustainable Development Goals: Experience of Universities in East Asia hosted by Graduate School of Education, Tohoku University, November 23rd, 2019. 招待講演
- ㉑ 広田照幸「大学とは何か／大学は何をなすべきか」日本私大教連2020春闘フォーラム、於明治大学グローバルホール、2020年1月25日、参加者は約80名(参加者は研究者、大学職員)
- ㉒ 渡邊雅子「国際バカロレアの知の理論が目指すもの」(課題研究「考えることを考えるー哲学する教育の可能性」)日本カリキュラム学会第30回大会、京都大学、2019年6月22日、参加者約70名(研究者、学校関係者他)。
- ㉓ 渡邊雅子「カリキュラムの見えない「前提」を問い直すー比較社会学・知識社会学の視点からー」(課題研究「カリキュラムの社会学のこれからを問う」)日本教育社会学会第71回大会、大正大学、2019年9月13日、参加者約120名。
- ㉔ Matsushita, K., & Ono, K. “Combining Course- and Program-Level Outcomes Assessments through Pivotal Embedded Performance Assessment (PEPA): Based on the Experience from a Japanese Dental Education Program.” 10th World Education Research Association Focal Meeting (Symposium “Defining and Assessing Disciplinary Learning Outcomes in Higher Education: Exploratory Developments in Engineering, Philosophy, and Dentistry), August 8, 2019, Gakushuin University, Tokyo. 参加者約 20 名
- ㉕ Fukahori, S., & Saito, U. “Generating Concrete-Level Shared Understandings of Abstract-Level Competences through the Collaborative Development of a Test Item Bank: Based on the Experience of Mechanical Engineers in Japan and Indonesia.” 10th World Education Research Association Focal Meeting (Symposium “Defining and Assessing Disciplinary Learning Outcomes in Higher Education: Exploratory Developments in Engineering, Philosophy, and Dentistry), August 8, 2019, Gakushuin University, Tokyo. 参加者約 20 名

○本事業で主催したシンポジウム等 (計4件) うち国際研究集会 計4件

- ① Issues and Possibilities of Liberal Arts Education: Invited Symposia, World Education Research Association 10th Anniversary Focal Meeting, Tokyo, August 8, 2019.
- ② 公開シンポジウム「人文社会学教育の内容と方法のイノベーションー国際比較ー」, 学習院大学、2020年2月16日 参加者約20名。
- ③ Fourth Stakeholders’ Meeting on Indicators for Internationalization of Higher Education in Asia and the Pacific”, (ユネスコ/バンコク事務所共催)。Hotel Nikko, Bangkok, Thailand, December 5, 6, 2019 参加者約 100 名
- ⑩ “Defining and Assessing Disciplinary Learning Outcomes in Higher Education: Exploratory Developments in Engineering, Philosophy, and Dentistry” 10th World Education Research Association Focal Meeting (WERA 2019)、学習院大学、2019年8月8日、参加者約20名(研究者)。

○ホームページ

<https://www.jsps.go.jp/global/data/h28/sato.gaiyozu.pdf>